

小石川高校ラグビー部

後援会会報 Vol.5

発行責任者 後援会理事長 齋藤守弘 平成 17 年 1 月発行

公式ホームページ <http://www.geocities.jp/koishikawarugby/>

目次

ご挨拶

・後援会会長

川口明 (昭和 42 年卒) 2

平成 16 年度総会のご報告

・総会承認事項 2

・総会の模様

川崎智康 (平成 14 年卒) 2

小石川高校ラグビー部より

・平成 16 年度秋季大会結果 3

・秋季大会の模様 3

・秋季大会で引退した 3 年生より

藤沼光太 (前キャプテン) 4

武田健志 (前 FW バイス) 4

後藤史孝 (前 BK バイス)

「一生青春」 5

國上真由美 (前マネージャー) 5

・新チーム メンバーより

島崎和徳 (現キャプテン・2 年) 6

渡辺貴行 (現 FW バイス・2 年) 6

多久和真 (現 BK バイス・2 年) 6

武田聡美 (現マネージャー・2 年) 7

・顧問より

藪上和夫 (英語科教諭)

「引退する 3 年生へ」 7

山田憲永 (体育科教諭)

「成長が楽しみな新チーム」 8

遠藤大輔 (英語科教諭)

「可能性」 8

・新人戦日程 9

連載 OB コラム

渡辺将 (昭和 54 年卒)

「クラブラグビーという名の迷宮」
..... 9

OB 現役プレイヤーより

荒川隆吉 (平成 14 年卒) 11

理事会よりお知らせ

・学年幹事の設置のお知らせ 11

・公式ホームページ紹介 12

・平成 16 年度会費納入のお願い 12

・後援会メーリングリスト参加のお願い 12

・住所不明者 12

・編集後記 13

総会資料

・総会資料 14

ご挨拶

後援会会長 川口明 (昭和 42 年卒)

先日、関東ラグビーフットボール協会のホームページで正月の大会の東京都代表が国学院久我山高校と東京高校になった事を知りました。東京高校は決勝で大東文化第一高校に勝って代表になったのですが、負けた大東文化第一高校はその前の準決勝で成蹊高校と当たり、同点引き分けで決勝に残ったのです。小石川高校は春の大会でこの成蹊高校に大敗を喫したのは御存知の通りですがその負けた試合を見ていて、どうしようもないと言う感じでは無く、やりようによっては勝てるのではないかと感じました。成蹊高校に勝てるようなチームになれば決勝にも残れる訳だし、東京代表も夢ではないと思ったのですが少し甘いのですかね。

それともう一つ。我々が高校生の頃に試合をした小石川工業、城北高校、戸山高校、富士高校等がそれぞれ他のチームと一緒にあって連合軍として参加していることを知りました。小石川高校も平成 18 年からいよいよ中高一貫校になるそうで、最近その説明会も開かれたと聞いております。そうなれば高校の生徒数は半分になる訳で部員の確保が非常に厳しくなることが予想されます。部員が少なくなり単独チームが組めなくなれば前述の様な連合軍チームとして参加せざるを得なくなってしまうと思います。小石川高校ラグビー部が単独チームとして試合が出来るようにするにはどうしたら良いか皆様のお知恵を拝借したいと思っております。

平成 16 年度総会のご報告

総会承認事項

去る 7 月 17 日、小石川高校において平成 16 年度後援会定期総会が行われました。14 ページ以降に記載されております平成 15 年度決算報告、平成 16 年度予算及び後援会役員体制につきまして、総会において承認されましたのでご報告いたします。

総会の模様

川崎智康 (平成 14 年卒)

去る 7 月 17 日、平成 16 年度小石川高校ラグビー部後援会総会が行われました。

晴天の中、総会に先立って行われた現役対 OB の交流戦では、和やかな雰囲気の中白熱した戦いが繰り広げられました。交流戦には、大学に入ってもラグビーを続けている二十歳前後の若手 OB が多く集まり、交流戦を盛り上げてくれました (本当はもう少し上の代の方々にももっと積極的に参加して頂きたいのですが...)。また若手だけでなく、もう少し年上の OB の方も参加され、現役高校生との試合を楽しんでおられました。ギャラリーのほうも、試合開始の 1 時間程前から徐々に集まり始めました。試合が進むにつれて人数も増えていき、試合が終わる頃には年配の方から若手まで数十人もの OB が集まり、試合観戦を楽しまれていました。試合は OB チームが意地を見せ、現役生チームに勝ちました。

試合終了後、休憩を挟んだのちに例年どおり校舎 3 階の会議室にて総会が行われました。総会では、顧問の先生方、川口会長、また今回初の試みとして現役生全部員の挨拶がありました。現役生にとってはいきなり大勢の OB の前での挨拶で緊張していたと思いますが、ラグビー部の歴史の長さ、OB の期待を肌で感じてくれたことと思います。ほかにも平成 15 年度の決算報告、16 年度の予算案や、活動計画についての報告が行われました。また、中高一貫制についても方向性を確認しました。総会には、沢山の OB の方に参加頂きました。

総会後には懇親会が行われ、近い年代の OB 同士で楽しく歓談されておりました。今回は学校での飲酒が禁止ということもあり、また現役生とも話をしてみたいという OB の声もあったので、現役生そして参加希望の父兄の皆様にも参加して頂きました。皆さん盛り上がっていた様子ではありませんでしたが、そこは久しぶりに会った仲間、やはりお酒がないのは少し寂しい様子でした。



小石川高校ラグビー部より

平成 16 年度秋季大会結果

(於：玉川学園グラウンド)

9/20 対府中西高校

21 - 39 (前半 7 - 29、後半 14 - 10)

秋季大会の様様



秋季大会で引退した 3 年生より**藤沼光太 (前キャプテン)**

自分は三年間、ラグビーというスポーツを通して、チームスポーツにおいて一人欠けることがどれほど辛いものなのかということを知りました。実生活における集団の中でも、同じことが言えると思います。ラグビーは他のスポーツよりも人数が多いので、より近いものが感じられました。また、ラグビーは荒々しく激しいスポーツであるため、沢山の傷を負いました。そして沢山の選手にも傷を負わせました。このことから、他人の痛みというものを感じられるようになったと思います。「ラグビーをやっているやつに悪いやつはいない。」というある OB さんの言葉はよく分かりました。自分の痛みがわかる人は、他人の痛みもわかるからです。

正直言って、秋の大会は不本意な結果で終わってしまいました。三年生の中でも骨折した人がいて、その人を出せなかったことも心残りです。しかし、終わってしまったことを、後で悔やんでもしかたがないことだと思いました。とは言ったもののやはり、不完全燃焼で負けたことは事実です。あの時こうしておけば、とか思い出すことはたびたびあります。このような後悔も、ひとつの経験だと思い、そして再度感じたくない思いであるので、今後はこのような後悔をしないように頑張っていきたいと思いました。

このようにラグビーを通じて、さまざまな実生活におけるシミュレーションが出来たと思います。これまで個人競技をしてきた自分にとっては、あまり感じたことのない経験ができました。今後、中高一貫などで、多くの部活は人数が少なくなってしまうかもしれませんが、ラグビー部には沢山の部員が入って、自分が感じたのと同じような多くの経験をしてほしいと思います。そのためには、自分も OB として部員を助けていかなければならないと思いました。

武田健志 (前FWバイス)

私たち、三年生が引退してから早くも二ヶ月の時間が過ぎました。(11月20日現在)現役でラグビーをプレーしていた時は、それを当たり前のこのように感じていましたが、それは非常に恵まれていたことだったと思う近頃です。これからの人生でラグビーに関わり続けていく人もいるであろうし、そうでない道を進む人もいるであろうと思います。しかし、三年間、私達 13 人全員がラグビープレーヤーであったということだけは、これから先もずっと変わることの無いことです。また、それと同時に、私達が高校生としてラグビーをすることは、これから先、二度と無いことです。そして、そこで、私たちが自分たちのラグビーに関してやってきたことに一つの後悔も無いと言えばそれはきっと嘘になってしまうだろうと思います。少なくとも私は後悔していることがいくつもあります。何よりもFWバイスとして、FWの全員をまとめきることができなかったのではないのかということが一番の悔いとして残ります。私は、結局の所、全てにおいて一番甘かったのではないのかと思います。

私は、これからこの小石川高校のラグビー部がもっと強くなっていく為には、数限りなくある自らの甘え、仲間の甘えをできるだけ減らすことが必要であると思います。ある面では心を鬼にして、たとえその選手の力が必要でも、練習への集合などが悪ければ試合では一切使わないというぐらいの非情さが必要であると思います。馴れ合いとチームワークは全く別のものだと私は思います。何よりも、私はこれを実際に現役の時に行きることができませんでした。一、二年生の皆に私が言えることはこのくらいです。

それでは、私は近い内に「俺のいたラグビー部、全国出場してんだぜ」と誰かに自慢できるような大学生になる為に勉強したいと思います。小石川高校ラグビー部の今後の更なる大活躍を大いに期待しています。

後藤史孝 (前BKバイス)**「一生青春」**

僕はこんなことを思いながら、日々過ごしています。「一生青春」つまり、大人になってもおじいちゃんになっても死ぬまでずっと青春だということです。僕にこれを教えてくれたのが、小石川高校であり、そして、小石川高校ラグビー部でした。選手ではなく、練習に来て教えて下さる若いOBの方々。大会や試合で一緒に応援して下さる年配のOBや父兄の方々。僕は色々な人たちのこのような姿を見ていてそう思いました。いままで、中学生や高校生が終わってしまえば、青春なんてものは終わってしまうと思っていた僕にとっては、とても新鮮なものであり、驚くべきことでした。

そんな僕のラグビー部での3年間は、長いようで短い3年間でした。入部したての頃は、とてもきつくて大変でしたが、3年生が引退し、2年生が6人しかいなくて自分たちがほとんどレギュラーに入るようになってから、ますます楽しく、また強くなりたと思いました。僕が希望したポジションはフルバック(以下FB)でした。なぜ、FBなのかというと、それまでFBをやっていた先輩を見てカッコいいと思ったし、自分もああいう風になりたいと思ったからでした。FBというポジションは守備に関して言えば、最後の砦と呼ばれるほど重要で抜かれたら終わりであり、攻撃に関して言えば、切り札といえるほどの重要なところ。実際にFBをやってみて、すごく難しくて最初はどう動いていいのか分からなかったけれど、練習や試合をするにつれて徐々に動きが分かってきました。そして、一年間が過ぎ、自分達が引っ張っていく代になって、僕はバックバイスをやることになりました。

バックスは自由気ままな人が多いので、まとめることは大変で、悩みました。しかし、みんなとやっていく内に、苦にもならなくまとめていくことが出来ました。そのようにして最後の大会になり、みんなで勝ち進んで上を目指していくはず

だったのだが・・・！！怪我人が出てしまったためにスタメンでしっかり練習できなかった我がチームは、気合でも試合でも負けてしまいました。僕は本当に悔しくて思わず泣いてしまいました。きっと今までの僕だったら、このときに青春が終わったと思い、これからの人生を無駄につまらなく生きていただろう。けれど、今の僕は違う！！小石川で過ごした日々を生かして、楽しく人生を過ごすことが出来ると思う。今まで一緒にやってきたみんな、先生、OB・父兄の方々本当にありがとうございました。

人生いつまでも青春だ！！

國上真由美 (前マネージャー)

ラグビーというスポーツ、マネージャーとしての仕事、何も分からないで入部した一年生の春、早いもので、あれからもう二年半以上の時が経ちました。

私の代はマネージャーが一人だったので、最初は不安でした。しかし、先輩たちはそんな思いも忘れさせてくれるほど、やさしく、明るく、部活の楽しさというものを教えてくれました。今でも本当に感謝しています。

二年生になり自分が先輩という立場になったとき、後輩ができて嬉しい反面、再び不安を感じたのが正直な所です。先輩の様に私は出来るのか、後輩を支える事なんて出来ないのではないか、と悩んだ事を覚えています。一気に責任や仕事が増した事で、戸惑っていたのでしょう。しかし、こんな思いも、また後輩達が忘れさせてくれました。明るく素直で、本来なら先輩である私が支えるべきなのに、逆に私が支えてもらっていた様な気がします。一年生も、二年生もありがとう。

そして、誰より一番感謝しなければならないのは部員達です。私が頑張れたのは、頑張ろうと思えたのは、皆が頑張っている姿を見ていたからだと思います。今いる部員は、三年生も含めてほぼ全員が、ラグビーを始めた頃から見ている人ばかりです。まだ初々しく、ボールを持つ手すらつた

なかった頃から知っています。誰よりも一番長く、近くで見ていたからこそ、試合や練習で頑張っている姿を見るのはとても嬉しかったです。負けたときや練習に覇気がないときは、悔しく、もどかしい思いでいっぱいでした。「とにかく夢中に頑張りたい」、これは今もこれからも、私が部員に望む唯一の事です。

マネージャーとして至らない点も多く、迷惑をかけたと思いますが、さまざまな点で支えて頂き、本当にありがとうございました。部員を始め、先生、OB、保護者の方々へ心より感謝申し上げます。

新チーム メンバーより

島崎和徳 (現キャプテン・2年)

新キャプテンの島崎です。春季大会には怪我で出場できず、悔しい思いをしました。その悔しさも束の間、新チーム作りが始まってしまいました。部員は2年9人、1年13人、マネージャー4人の計36人となりました。最初に感じたことは、3年生の存在がとても大きかったということです。人数もとても多かったため、1・2年生の試合経験が少なく、正直不安でした。しかし、逆に考えれば、これからの練習によっては一気に伸びる可能性を秘めているといえます。体が大きく個人の力が強かった3年生に比べ、1・2年生は体が小さく個人では勝負できません。そのため、今まで以上にチームプレーが大事になってくるでしょう。練習中は声を出してコミュニケーションをとることはもちろん、チーム全員が練習に対する意識をしっかりと持つことが大切です。今年から練習ノートを始めました。その日の練習で意識したこと、学んだこと、試合での反省、疑問などを記録し、週ごとに顧問の山田先生に提出するというものです。これは限られた時間内での練習を無駄にせず、一回の練習で少しでも多くのことを吸収するためのものです。また、走力、筋力の測定記録も始めました。一人一人が向上心を持って部活に取り組めるように、さらにチーム内での記録の競争

によってライバル心が生まれ、自主的にトレーニングが出来るように、という狙いがあります。これからのチームとしての目標は、どんなに点差をつけられても最後まで気持ちを切らさずに、トライを取りに行くことです。負け試合をただ負けて終わるのか、それとも最後まで意地を見せて次につながる負け方をするのか、それは自分たち次第です。そして、最終的にはすべてのチームを倒し、頂点に立つことを目標に練習に取り組んでいきたいと思っています。

渡辺貴行 (現FWバイス・2年)

チームから三年生が抜けて、改めてその存在の大きさを実感しています。

三年生は色々な面でとても尊敬できる先輩でした。特に関わりの深かったフォワードの先輩たちの個性の豊かさには、自分たちにはまねできないものがありました。

そして、そんなフォワードの先輩たちがいなくなってしまって、フォワードはどうにも士気が上がりません。12月23日には農大一校との試合を控えているのに、みんなやる気があるのか無いか、分かりません。これは大部分がフォワードバイスの僕の責任ですが、フォワード一人一人にもう少しやる気を出して欲しいです。

今のフォワードは、体は小さいですが、もう少し頑張れば三年生の抜けた大きな穴を埋めることが出来ると思います。今はまだまだ未熟な面が多いですが、これから精進に精進を重ね、絶対強くなってみせます。これからも応援よろしく御願います。

多久和真 (現BKバイス・2年)

バックスパイスの多久です。今年のバックスの目標は、バックスラインの間を抜かれて相手にトライを取られないようにすることです。要するに、ディフェンスを重視して、相手のミスに漬け込んでトライをあげていこうと思っています。そのためにこれからやっていきたいのは、ラインメ

イクを早くして、お互いに声を出し合ってノミネットするといった基本的なことです。しかし今のチームは声を出す人が少なく、練習でもよい雰囲気がつくれていません。普段から声が出ていれば、試合でも出来ると思うし、やっぱり雰囲気が変わり、よくなると思う。そこで、僕ら二年生がもっと引っ張って練習を盛り上げていきたい。

さて、オフenseですが、今は内サインは使わず、外サインしか使っていないのですが、まだまだ練習が足りなくて、回してもウイングまでボールが回りません。これが出来ないとどこをやっても勝てる気がしません。もっともっと練習を積んでどんな相手でもちゃんと回せるようにしたい。しかし、キャプテンでスタンドの島崎が怪我で三ヶ月練習できなくなってしまったため、大会に向けて、チーム力が下がったと思うが、そこはチーム一丸となって、穴を埋める動きをすればいいと思う。そのために、一人一人が 120%の力を出して戦っていききたい。

武田聡美 (現マネージャー 2 年生)

三年生が引退して二ヶ月が経ちました。チームの中心だった十三人が急にいなくなった訳なので、正直その穴は非常に大きいなと感じています。先輩たちの広い背中や、掛け声や、強固なタックル、粘り強さ、持久力など、まだ到底敵わないところが沢山あります。けれど、いつか追いついてみせるという意気込みを彼らの練習風景から少し感じとれるようになりました。

私は部員の組む円陣が好きです。円陣を組んだ瞬間から、試合は始まっているのだと思います。三年生が抜けた直後は本当に小さく頼りなく見えたのですが、対科技高多摩との練習の時には、腕と腕が力強く生まれ、表情も真剣なラグビー選手のものになっていました。その変化に胸が一杯になったことを覚えています。

新生ラグビー部になってからの練習試合の成績は三戦一勝。その一勝と他との明確な相違点は、『絶対勝つんだ』という強い意志があったという

ことでしょう。また同時に、彼らはまだその“力”を惜しくもまだ一度しか発揮できていないのです…。

課題は追求すれば限り無く出てくるでしょう。しかし焦らず一つ一つ乗り越えて行って欲しいです。私は怪我の手当てやテーピングだけでなく、そんな面においても部員を支えてあげられたらいいなと思っています。

顧問より

藪上 和夫 (英語科教諭)

「引退する 3 年生へ」

2004 年 9 月 20 日、君たちの最後の試合があっけなく終わってしまった。「こんなはずではなかった・・・」という君たちの残念な表情を私は忘れられないだろう。

3 年前の春、ラグビー部は大変な時代を迎えていた。ぎりぎりの人数で迎えた春の大会で初戦敗退。さらに当時のキャプテンはこの大会を最後に引退してしまい、2、3 年生では 15 人を割ってしまう状態で、クラブの雰囲気も今ひとつだった。そんなときに現れたのが君たちだった。

15 人 (選手 14 人、マネージャー 1 人) という多くの新入部員を迎え、クラブは一気に活気づいた。とにかく君たちは明るく、練習もよくやった (私にはそう見えた)。先輩達の人数が少なかったこともあり、試合を経験する機会にも恵まれ、君たちはどんどん強くなっていった。そして君たちの代の新人戦では、圧倒的な強さで相手を完封し、3 戦全勝した。その勢いを失うことなく迎えた春の大会。強敵を次々と倒しベスト 16 に進出した。最後は強豪成蹊高校を相手に点差は開いたものの、手応えを感じる試合ができた。秋は本当に期待できると誰もが思っていたことだろう。

ところがこの後、少しずつ歯車が狂いだしたような気がする。夏合宿でもどうもチームはぴりっとしていなかった。それも杞憂に終わればいいと思いつつながら 9 月 20 日を迎えてしまった。

最後の試合はもちろん、いつも君たちの試合を

じっと観戦していた Y 君について少しに触れておきたい。彼は君たちの同期で、事情があって高校をやめてしまったが、ラグビーだけは大好きだった。小石川に来る以前、私はそんな生徒にラグビーを教えることが好きだった。ラグビーを通じて高校生活を充実させてあげることに生き甲斐を感じていた。Y 君に対しそれをしてあげられなかったことが残念だ。

君たちの最後の試合と去っていった Y 君。私自身もすこし苦い思い出が残った。しかし入学以来 3 年間で君たちがラグビー部にとって果たした役割は本当に大きいと思う。Y 君も含め君たちはラグビー部の救世主だった。ラグビー部を完全復活させてくれたといっても言い過ぎではないだろう。どうか胸を張って卒業してほしい。高校生活はもうすぐノーサイド。次の舞台のキックオフが待っている。

山田憲永 (体育科教諭)

「成長が楽しみな新チーム」

12 月から始まる新人戦に向けて、1・2 年生は熱心に練習に取り組んでいます。レギュラーが多く抜けたため、その穴を埋めようと必死に部員達はボールを追いかけています。

現在は基本的な技術の習得 (コンタクト、ハンドリング、サポートなど) を中心として、強化を図っています。スキル、フィットネス面で 3 年生には及びませんが、一日、一日と部員達は遅くなってきているのが良くわかります。特に 1 年生がここにきて大きく成長しており、これからどこまで成長していくのかとても楽しみです。2 年生は最上学年という自覚を持って、自らの強化、チームの強化に取り組んでいます。

FW、BK ともユニットとしての動きを身につけようと努力しているため、チームとしてのまとまりはまだまだです。しかし、これからの成長が期待できるため、焦らずに一步、一步、成長してほしいと願っています。

新人戦では勝利のみを目指すのではなく、「思

い切ったプレーで、がむしゃらに最後まで戦い続ける」といった試合内容にこだわってほしいと思います。気持ちで相手に負けない、さらに自分にも負けない、そのような精神的な部分の成長を部員達には期待しています。気持ちで負けなければ、必ずこの先良い結果を部員達はつかむことができると思います。

また、一人一人が自分の役割を考えてプレーしてほしいと思っています。自分の責任を果たし、仲間を信じて戦うことができれば、必ず大きく成長するでしょう。部員達が自分の殻をいかに破ることができるか、新人戦での楽しみのひとつです。

頑張る前に進んでいこうとしている部員たちの応援を、今後もよろしくお願いたします。

遠藤大輔 (英語科教諭)

「可能性」

3 年生が抜け、新チームで活動するようになってすでに 2 ヶ月が経過しました。レギュラーの多くが 3 年生だったため、当初はその穴の大きさを実感し、この 1 年を不安に思いました。しかし、1・2 年生が一生懸命に練習に取り組んでいる姿を目の当たりにし、その不安も今は感じなくなりました。

2 年生は少しずつですがリーダーシップを取れるようになってきたと感じます。今までは、実力はあっても口数が少なく、周囲に影響を及ぼすことが少なかったように思います。しかし最近では周囲に積極的に指示を出し、チーム全体の力を押し上げようとする姿勢が見られます。以前と比べ、たくましさやプレイヤーとしてのいやらしさも身に付けてきました。チームの柱として積極的にプレーし、1 年生を引っ張って欲しいと思います。

1 年生は、入学当初と比べるとたくましくなりました。だんだんラグーマンらしくなってきたように思います。練習にも熱心です。後は積極性です。今はミスをして構わないので、積極的にプレーして欲しいと思います。逆に言えば、ミスで

きるのは今のうちなのですから。今のうちに積極的なプレーをし、たくさんミスをしながら学び、大きなラグーマンになって欲しいと思います。

3 年生が抜け、その事を不安に思った一方で、3 年生の影に隠れていた能力がどんどん成長してきています。まだチームとしての完成度は低いです。しかし、日頃から部員の熱心さと成長度を見ていると、可能性を感じずにはられません。これから部員たちはますます成長し、変化していくと思います。その楽しみに今後も応援をよろしくお願いいたします。

新人戦日程

来年早々に行われます新人戦の日程が決まりました。新チームの勇姿を見にいらしてください。

- 1/16 11:00 対 東京農大一
1/23 13:00 対 帝京
1/30 13:00 対 石神井

場所は、すべて豊多摩高校グラウンドです。
(最寄り駅：井の頭線浜田山駅)

連載 OB コラム

今回で 4 回目となる OB コラムですが、今回は昭和 54 年卒の渡辺将さんに書いていただきました。次号は昭和 56 年卒の矢島秀一さんに書いていただきます。よろしくお願ひします。

渡辺将 (昭和 54 年卒)

「クラブラグビーという名の迷宮」

ラグビー・トップリーグが華々しく開幕した 2003~04 年シーズンは、私のようなクラブラグビーに携わる者にとっても記念すべき年となりました。日本選手権への出場制度が改正され、クラブチームの代表が参加できるようになったのです。

クラブラグビーというとは一般には、素人が楽し

みでやっている「草野球」のようなもの、といった印象が強いようですし、たしかに良きにつけ悪しきにつけ、そういった部分も根強くあります。またもちろん、クラブチーム代表が日本選手権に出られることと、私や私の所属しているチームが出られることとは、全くの別問題だということも十分承知しています。

ちなみに、私が所属する「ガッデムズ」の実力はというと、一昨年に東京都クラブチーム選手権 2 部で優勝し、昨年勇躍 1 部に挑んだものの、強豪「曼荼羅クラブ」に 100 点ゲームで敗れるなど 3 戦 3 敗、あっという間に 2 部に逆戻り、という程度です。ま、中の上から上の下といった感じでしょうか。

しかしそれでも、クラブラグビーが、ラグビーチームの一つのあり方として正式に認知されたのは画期的でした。私たちのラグビーが、大学ラグビーや社会人ラグビーと全く別世界のものではなく、遙か彼方では地続きなんだと思えるのは、なんだか胸躍ることだったのです。

私は、大学ラグビーも社会人ラグビーも経験がありません。小石川高校卒業後、しばらくのブランクを経て、縁あって今のチームに入り、以来約 20 年間、細々とではありますが、ずっとそこでプレーをしてきました。なぜそんなに続いたのか、いったいクラブラグビーの何に魅せられたのか、自身での再確認もかねて、少しお話ししたいと思います。

前回のリレーコラムで中村先輩も触れられていましたが、クラブチームの大きな特徴の一つに、集まってくるメンバーの多彩さがあります。年齢だけ見ても、社会人、ましてや学生とは比べものにならないくらい幅があります。私のチームでいえば、現役最年長は 49 歳、最年少は 19 歳です。私もいまや“超”年長組の一人となり、小石川でラグビーを始めた頃に生まれたような連中と、一緒にプレーをしています。そんな奴らから怒られることもあり、「ちくしょー、こっちはお前らが生まれる前から『ヨイヤサ』やってんだぞ」と悔

しくもなりますが、それは、クラブチームだからこそ味わえる面白さでもあります。

メンバーの出自もバラエティに富んでいます。花園経験者、大学体育会出身者から、ラグビー初心者までが同じチームで汗を流すというのは、クラブチーム以外には考えられないでしょう。きっと、何のしがらみもなく、純粹にラグビーが好きで集まった仲間だからこそ、それが可能なのです。

チーム自体の多様さもクラブチームならではのものです。ある学校や企業の OB が主体となっているもの、地域の仲間がつくったもの、在日外国人が集まったものなど、チームの形態は実にさまざまです。我がチームはといえば、学生運動の余韻冷めやらぬ 70 年代の新宿で産声を上げました。ゴールデン街にある店の従業員と常連客が、酒ばかり飲んでいては身体がなまると始めたチームでした。「ガッデムズ」という、かなり乱暴な名前も、当時の世相を色濃く反映しているように思います。同じくゴールデン街にできた別のチームには、元日大全共闘議長の秋田明大氏が所属していたと聞きます。

チームの目指す方向も多種多様です。冒頭で述べたように、日本選手権への出場を目標としているチームがある一方、みんなで楕円球を追いかけることが目的で、試合に勝つ勝たないは二の次だというチームもあります。さらにいえば、一つのチームでも目的が常に同じとは限らないのです。

ガッデムズは来年、創設 30 周年を迎えます。クラブチームとしては歴史のあるほうではないかと思いますが、最初から今のようなチーム形態だったわけではありません。結成当初は誰もラグビーをやったことがなく、最初の練習は、ルールブックとボールを持って花園神社に集まり、ただ走り回っていたという逸話があります。その頃は、ラグビーボールと戯れることそのものが目的だったのでしょう。

私がチームに加わったのは、創立から 10 年ほど経った頃でした。当時は、サンデーリーグというリーグ戦に参加していましたが、経験者は 3 分

の 1 程度。リーグで唯一、優勝経験のないチームでした。作戦や戦略といったようなものはほとんどなく、ただがむしゃらに前に出るというスタイルで、チーム名そのまま、まさに「ガッデム野郎」たちの集まりでした。ただただ、試合の後の美味しいビールを目指して頑張っていたようなものです。

その後、徐々に経験者が増え、90 年代に入るあたりからチーム力がアップし始めました。リーグでの優勝も飾り、都のクラブ選手権に参加し始めたのもこの頃です。勝つ味を覚えると、勝ちたいという意欲も増してくるもので、人伝えにリクルートをしたり、練習方法を工夫したり、戦術を練ったりといった動きが出てきました。

けれどこの 30 年間、首脳陣を中心にメンバーは、常に、悩み、惑い、揺れ動いていました。勝ちにこだわるのか、参加者全員出場を旨とするのか、上を目指すのか、楽しむことを第一とするのか、試合をするのが一番か、じっくり練習に取り組むべきか……そしてその答えは、まだ出ていないのです。

それでいいのではないかと思います。むしろ、それこそがクラブラグビーの魅力なのではないかと思っています。それぞれのチームが、今いるメンバーの中で、どうすれば最もラグビーを楽しむことができるのかを模索し続けるのが、クラブラグビーだとさえいえるでしょう。クラブラグビーは、まるで出口のない迷宮のようなもの、といったら、ちょっとカッコつけすぎでしょうか。

でも少なくとも私は、その魅力があるからこそ、いまだにラグビーを続けているような気がします。来年、チームの 30 周年と同時に自ら還暦を迎えるチームオーナーは、酔った勢いで「30 年記念解散だッ」などと叫んだりします。しかし私は、もう少し、クラブチームという迷宮の中で彷徨っていたいと思うのです。

OB の皆さんはもちろん、現役の皆さんも、もしクラブラグビーというものに少しでも興味をもたれたら、どうぞチームの門を叩いてみてくだ

さい。きっと一味違ったラグビーのあり方を見つけられるはず。もちろん我がガッデムズは、「Anytime Everybody Welcome」です。

さて、次回のリレーコラムは、後援会総会で卒業以来久しぶりに再開した、2 期下の矢島秀一さんをお願いしたいと思います。たまたま会ったばかりの理不尽な指名ですが、ま、先輩の頼みと諦めてください。どうやら高校の頃からオレは理不尽だったようだしね。

OB 現役プレイヤーより

今回、高校を卒業してもラグビーをやり続け、青山学院大学で活躍している荒川隆吉さんからメッセージをいただきました。

荒川隆吉 (平成 14 年卒)

私は今、青山学院大学の体育会ラグビー部に所属しています。この部は今年創部 80 周年を迎える伝統を持った部です。チームは対抗戦 A グループに位置しており、早稲田、明治、慶応と言った大学ラグビーの最高峰のチームとの対戦を行っています。しかしなかなかこれらの学校に食らいついていくのは難しい状況であるのも現実です。部員のほとんどが高校か、それ以前からのラグビー経験者で、中には花園の経験者もいます。彼らとプレーをしているとそれぞれのラグビー論があり、ラグビーに関する知識を持つこと、それが私のいた頃のチームに欠けていたものだと気付かされました。私が現役の時、どうにかなると思っても、その知識の差が試合の時には皮肉なほどはつきりと現れるもので、試合に負けた後の反省には「上手さで負けた」とか「(試合数などの)経験の差」と言うものが多かった気がします。そういうものがいかにして育まれるのか、答えは明白なもので、試合の数をこなしていくことです。当然と言えば当然なのですが、それが当時の僕らには難しかったこともまた、事実なのです。部員数が少ない上、怪我人も出てくる。試合が続けば怪我人が増える確立も増す。ラグビーの向上には

「ラグビーで勝つこと」と「ラグビーを楽しむこと」が欠かせないと、今、私は思います。試合はそれを一度に可能にします。試合を繰り返すことでラグビーが楽しくなり、負けることで勝ちたい欲が出て日々努力する。このサイクルが上手くかみ合うことでチームは良くなっていくのだと思います。最近の現役の様子を直接見ていないので詳しくは分かりませんが(本当に申し訳ない)、人数の面では僕らの頃よりも充実しているようです。だからこそ私は彼らに試合をして欲しいと思います。現役の部員には、辛くても引退まで「全員で」思い切りラグビーをやって欲しいと思います。そこでできる絆を大切にしたいです。またこの場を借りて、試合が少なく、辛い練習ばかり課しても秋の最後まで付いてきてくれた同期・後輩へ、お詫びと感謝の気持ちを伝えたいと思います。

理事会よりお知らせ

学年幹事の設置のお知らせ

平成 15 年度より連絡体制強化のため、学年幹事を作りました。以下のように各学年 1 名、ないし 2 名の方々にいただきました。まだ学年幹事が決まっていない学年もあります。なっていただけの方がいらっしゃいましたら、是非編集後記にありません連絡先までご連絡ください。

昭和 50 年卒	
昭和 51 年卒	小泉 良紀
昭和 52 年卒	平 耕一
昭和 53 年卒	本澤 豊
昭和 54 年卒	渡辺 将
昭和 55 年卒	新保 泰広
昭和 56 年卒	矢島 秀一
昭和 57 年卒	森林 滋
昭和 58 年卒	清野 健一
昭和 59 年卒	渡辺 豊
昭和 60 年卒	
昭和 61 年卒	道家 竜馬 花島 毅
昭和 62 年卒	原 敬一郎
昭和 63 年卒	中村 浩一
平成元年卒	嵯峨山 聖基

平成 2 年卒	井上 浩志
平成 3 年卒	栗村 賢司
平成 4 年卒	
平成 5 年卒	菅原 賢
平成 6 年卒	尾崎 公律
平成 7 年卒	浜田 尊之
平成 8 年卒	
平成 9 年卒	
平成 10 年卒	
平成 11 年卒	山崎 陽一郎
平成 12 年卒	武藤 拓馬
平成 13 年卒	島崎 将成
平成 14 年卒	川崎 智康
平成 15 年卒	斎藤 十五 南 公一郎

(敬称略)

公式ホームページ紹介

円滑な情報伝達と会員の親睦を図るために小石川高校ラグビー部後援会のホームページを開設しております。ホームページのアドレスは

<http://www.geocities.jp/koishikawarugby/>です。ホームページ上の掲示板にはOB、OGをはじめ、現役部員も書き込んでいます。1度ご覧になり、近況や後援会に対するご意見、現役生への励ましなどを是非お書き下さい。

また現役の練習スケジュールも載せておりますので、ぜひ練習日程を確認していただき、グラウンドに足をお運び下さい。

平成 15 年度会費納入のお願い

年会費は後援会規約第 6 条により社会人は 5000 円、学生は 3000 円となります。

まだ納入されていない会員の方は、この機会にお振込み頂きますようお願いいたします。

会費振り込み方法は以下の通りです。

郵便局

口座番号：00100 - 0 - 591395

加入者名：東京都立小石川高等学校ラグビー部
後援会

銀行

みずほ銀行 駒込支店

普通預金

店番号 559 口座番号 0451272

小石川高等学校ラグビー部後援会

後援会メーリングリスト参加のお願い

会員間の情報交換及び試合日程のお知らせなどのために後援会のメーリングリストを運営いたしております。現在、約 70 名方々が登録されております。参加希望の方は、下記の URL にアクセスしていただくか、又は連絡先にご連絡をしていただきますよう、お願いいたします。

<http://groups.yahoo.co.jp/group/krc-koen/>

住所不明者

(敬称略)

昭和 28 年卒	藤井 總明
昭和 29 年卒	神田 孝行
昭和 30 年卒	小林 庸治
昭和 34 年卒	山岸 萬男
昭和 35 年卒	前田 忠昭
昭和 36 年卒	江口 次郎
昭和 36 年卒	竹内 誠
昭和 37 年卒	杉本 優
昭和 37 年卒	船越 丈生
昭和 38 年卒	鈴木 健
昭和 38 年卒	野口 順三
昭和 38 年卒	清水 正一
昭和 39 年卒	金沢 洋一
昭和 39 年卒	西尾 征二
昭和 40 年卒	宮田 光彦
昭和 42 年卒	中村 善昭
昭和 43 年卒	吉田 隆治
昭和 44 年卒	清田 滋
昭和 44 年卒	内藤 清
昭和 44 年卒	小川 久
昭和 44 年卒	蛭田 真一
昭和 44 年卒	柳原 彰一郎
昭和 45 年卒	成澤 淳
昭和 47 年卒	野口 直子
昭和 49 年卒	武藤 郁子
昭和 49 年卒	幸島 敏
昭和 50 年卒	荒井 優二
昭和 52 年卒	小野(矢部) 邦子
昭和 53 年卒	菊地 昭仁
昭和 53 年卒	小森 学

昭和 53 年卒	永田 利樹
昭和 54 年卒	越田 明宏
昭和 55 年卒	手塚 正時
昭和 55 年卒	徳川 直久
昭和 55 年卒	大多和(森) 節子
昭和 56 年卒	泉 達也
昭和 57 年卒	佐々木 清子
昭和 58 年卒	阿部(高橋) 秀子
昭和 58 年卒	矢作 真樹
昭和 59 年卒	木内 俊直
昭和 59 年卒	遠藤 誠
昭和 60 年卒	奥津 勝
昭和 60 年卒	佐藤 修
昭和 60 年卒	江尻 剛
昭和 60 年卒	平石 憲一
昭和 61 年卒	市田 太一
昭和 61 年卒	山本 浩司
昭和 62 年卒	荒井 健次
昭和 62 年卒	五十嵐 雅祥
昭和 62 年卒	高岡 由紀子
昭和 63 年卒	菅野 悦也
昭和 63 年卒	小笠原 裕司
平成元年卒	田代 安史
平成元年卒	宮本 健
平成元年卒	鴻谷 絵里
平成元年卒	小室 文也
平成 2 年卒	斉藤 慎也
平成 2 年卒	橋本 智
平成 5 年卒	鬼久保 大輔
平成 5 年卒	小山 慎一郎
平成 5 年卒	高野 信一郎
平成 6 年卒	酒井 くみ子
平成 6 年卒	佐藤 大喜
平成 7 年卒	榎 達也
平成 9 年卒	梅谷 哲也
平成 9 年卒	井口 敦
平成 10 年卒	大河原 葵

以上の皆様の住所をご存知の方、引越し等で住所を変更される方は編集後記にあります連絡先までお知らせください。

編集後記

3 年生、本当にお疲れ様でした。3 年生とは 1 年間ともにプレーしただけあって特別な思い出があります。高校 3 年間をラグビーに費やしていたことをばねに大きく成長してもらいたいです。

小石川は平成 18 年度から中高一貫となるわけで部員の減少が起こるのは明らかです。今後は OB としての更なる貢献が求められていることと思います。今回、青山学院大学で活躍中の荒川隆吉さんに原稿を書いていただきました。現役の大きな励みとなることと思います。ありがとうございました。そして、本報の編集にあたっては、年末でお忙しい中、原稿執筆などご協力頂いた皆様ありがとうございました。

(編集担当：南公一郎(平成 15 年卒)

斎藤十五(平成 15 年卒))

なおこの会報についてのご意見、お問い合わせ等は、以下の連絡先までお願いいたします。

<連絡先>

武藤拓馬(平成 12 年卒)

住所：〒175 - 0082

東京都板橋区高島平 7 - 20 - 10 - 404

TEL : 090 - 6140 - 8356

E-mail: brief_schicken@hotmail.com

次回の会報は平成 17 年 5 月発行の予定です。

平成 15 年度 (平成 15 年 7 月 1 日 ~ 平成 16 年 6 月 30 日) 決算報告

収入の部		予算	決算
	後援会年会費	¥500,000	¥372,000
	寄付金	¥100,000	¥136,000
	利子・利息	¥10	¥15
	前年度繰越金	¥1,101,245	¥1,107,245
	懇親会立替金返金		¥100,000
	懇親会残金		¥19,430
	合計	¥1,701,255	¥1,734,690

支出の部		予算	決算
	学生強化費	¥350,000	¥163,261
	夏季合宿 OB 補助	¥50,000	¥36,000
	大泉定期戦費用	¥70,000	¥16,000
	通信費	¥100,000	¥77,890
	現役保険料	¥15,000	¥15,000
	振替手数料	¥7,000	¥3,000
	60 周年積立金	¥100,000	¥100,000
	予備費	¥1,009,225	¥9,751
	顧問預け金	¥0	¥36,739
	懇親会立替金	¥0	¥100,000
	合計	¥1,701,255	¥557,641
	次年度繰越金		¥1,177,049

平成 16 年度 (平成 16 年 7 月 1 日 ~ 平成 17 年 6 月 30 日) 予算

収入の部		予算
	後援会年会費	¥400,000
	寄付金	¥100,000
	利息	¥10
	前年度繰越金	¥1,177,049
	懇親会立替金返済	¥90,000
	合計	¥1,717,255

支出の部		予算
	学生強化費	¥313,261
	夏季合宿 OB 補助	¥100,000
	大泉定期戦費用	¥30,000
	通信費	¥100,000
	現役保険料	¥15,000
	振替手数料	¥5,000
	60 周年積立金	¥100,000
	雑費	¥10,000
	予備費	¥953,994
	懇親会立替金	¥90,000
合計	¥1,717,255	

役員の改選について

平成 14 年の総会で選任された後援会長・理事長他の役員については 2 年間の任期を経て、今回改選を行うものとしますが、基本的に全員留任といたします。

退任および新任理事就任について

退任する理事及び新任理事は下記の通りです。

退任理事

藤枝昭裕 (昭和 58 年卒)

新任理事

南公一郎 (平成 15 年卒)

小石川高校中高一貫校について

平成 18 年度より小石川高校は中高一貫の 6 年制となります。これにより、高校生の人数の減少による部員確保の問題や中学へのラグビー部創部の働きかけなど、今後学校に対しての対応が増えていくと考えております。理事会と致しましても、適時学校・顧問の先生と連絡を取り合い、ラグビー部として望ましい方向に進むように関わっていきたいと考えております。